

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172902710		
法人名	株式会社 アイエスティサービス		
事業所名	グループホーム 1条ハイツ		
所在地	旭川市1条通6丁目83		
自己評価作成日	平成22年6月7日	評価結果市町村受理日	平成22年7月21日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172902710&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成22年7月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

立地が市内駅前という事もあり来訪される方の公共交通機関の便がよく、車のない方での来訪しやすい。
車での迎えが来るまでの時間に寄っていかれる方や仕事帰りや買い物帰りなどに少しの時間でも気軽に立ち寄っていただける。
少人数の為、利用者の個々での買い物や外出希望などに敏速に対応できる。
昔から通い慣れている病院や店をそのまま利用していけるように支援している。
家族や友人などの宿泊希望があれば同じ部屋で宿泊する事が出来る。宿泊された方で食事を希望された方には食事なども提供している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

鉄筋コンクリート造り3階建ての市内中心部に開設されている交通の利便性に優れている1ユニットのグループホームです。また、ホームの理念の実践の為に職員一人ひとりの具体的な目標を掲げ、その達成に取り組んでいます。身体拘束廃止委員会を設けて、研修会の実施や玄関の開放等の取り組み等管理者、職員間の共通した認識がもたれるよう取り組んでいます。また、日本舞踊や演奏等の地元ボランティアの受け入れや利用者の知人の来訪、馴染みの美容室の利用等地域とつながりながら暮らし続けられるよう支援に努めています。ヒヤリ・ハットでは、転倒等の事故の未然防止に取り組んだり、リスクに備えた訓練の実施が検討されています。

【サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します】

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
理念に基づく運営						
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者が自分らしい生活を送れるようリビングに掲示している。全職員で話し合いながら新しい理念を作る予定がある。	事業所独自の理念をつくりあげ、その達成に向けて職員一人ひとりの具体的な目標を掲げ実践している。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の方にも気軽に挨拶を交わしたり、行事などに品物を提供して頂くなど交流している。	旭川駅周辺の商業地域に位置し、地域住民が少ないなか、近隣住民との日常会話や運営推進会議参加等交流に努めている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の方が行事に参加できるように話しをしているが、商業地という事もあり住人が少なくなかなか参加してもらえない。町内会の会合があれば参加し、認知症を理解してもらえるように努めていきたい。			
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で感想や要望があれば議題として取り上げている。	運営推進会議では、実際にあったグループホーム火災の報告や取り組み状況、身体拘束廃止等具体的内容について話し合わせ、サービスの向上に活かされている。	本年度、包括支援センターや行政担当者にも参加の呼びかけを行う予定とのことなので、その実践に期待します。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	疑問や相談があった場合はその都度、電話や訪問で解決している。	市担当者や包括支援センターとは、日常業務を通じて情報交換を行い、連携を深めるように努めている。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止マニュアルや定期会議の議題で取り上げ、身体拘束禁止事項を認識し、身体拘束無しのケアに取り組んでいる。	職員の倫理規定、身体拘束廃止委員会で管理者及び職員の認識の共有が行われている。また、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修会の実施、外部の研修会に積極的に参加している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修があれば参加したいと考えている。現在は活用される方はいない。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用前には訪問面談を行い、見学を勧め、希望や不安・疑問点をお聞きし安心して入居できるよう努力している。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱を設置している。管理者や職員が近況報告を兼ねて話す機会を設けることで意見や要望が気軽に話せるよう配慮している。要望・苦情には敏速な対応を心がけサービスの取り組みをしている。	本人や家族、来訪者等が管理者、職員並びに外部者へ意見や苦情等を言い表せるように苦情箱を設置し、運営に反映できる仕組みが整っている。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼を始めるようになった。会議などで聞く機会を作っている。	定期的な会議や朝礼等、日常業務を通じて意見や要望、提案を聞く機会を設けている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業所負担で懇親会を開き労をねぎらっている。残業無しや希望休などを取り入れ働きやすい環境作りをしている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業内でも定期的に勉強会を設けると共に、外部の研修にできるだけ参加できる機会を確保している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会や研究会に参加し、交流・情報交換を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前には訪問面談を行い、見学を勧め、希望や不安・疑問点をお聞きし安心して入居できるよう努力している。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族や本人と直接面談を行い、不安・要望などを聞き取り受け止めている。相談員やケアマネージャー等とも連携し情報収集を行っている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その都度アドバイスや説明を行っている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コミュニケーションを図りながら利用者の情報収集をして、本人の経験などからできることを探し楽しんだり教えてもらう機会を作っている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面接時に状況報告を行い、施設内の生活内容を知ってもらえるように努力している。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会があった場合は、また来訪されるようお願いしている。昔馴染みの病院・美容室などに行ったりする機会を作っている。お墓参りなどもしている。	馴染みの人の来訪や昔馴染みの美容室に行く等関係が途切れないように支援に努めている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握し、穏やかに過ごせるようにリビングの席なども配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後やなくなった場合には家族や医療機関等にも継続的に連絡を取ったり行ったりしている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや意向を汲み取るよう努め、日常生活や行動からも何を求め、望んでいるか情報収集している。	センター方式を活用して、一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。また、職員間で情報の共有が行われている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にセンター方式を活用し家族や関係機関から情報収集を行い、生活歴や馴染みの生活に努めている。また、入居後は御本人との会話や日常生活の中で情報収集している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の入居者の生活リズムを職員が把握している。日々の状況や職員が気づいたことを管理者が把握し、申し送りノートによって職員間で共有している。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者家族や医師等の意見を聞きモニタリングや会議等で話し合いを行っている。	センター方式を利用して本人、家族の意見や思いを反映するようにしている。また、サービス担当者会議、モニタリングを通じて介護計画に職員の意見を反映している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録と日誌等の見直しを行った。ケアプランと日誌がつながるように会議等でも話し合い取り組みをしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の外出、家族の宿泊、入退院など状況に応じて対応している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じてボランティアさんや警察の方に公演を依頼し入居者を支援している。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれの掛かり付け医に同行受診。その都度相談している。必要な時は栄養士や作業療法士などからアドバイスをもらっている。	本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。また、栄養士や作業療法士の助言を受けながら適切な医療を受けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が配置されており、緊急の相談にも適切に対応、アドバイスもらっている。			
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期退院に向け、医師と連携をとっている。体調・病状の確認を含め、お見舞いに行き病院関係者・家族と情報交換や相談の場を作っている。			
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時には「重度化した場合における対応にかかわる指針」を説明している。状況に合わせて家族や病院と相談している。	方針が明文化され、本人や家族の意向を踏まえ、医師、職員が連携をとり、事業所ができることを十分に説明しながら職員間で共有している。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	手順などは徹底し研修などで行っているが、訓練までには至っていない。			
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は全職員参加し行っている。系列の会社にも協力体制をお願いしている。	本年中にスプリンクラーの設置が完了予定。また、消防署の協力を得ながら避難訓練の実施や設備の定期点検も行われている。	緊急時に備えた初期対応の訓練に期待します。また、ヒヤリ・ハットで事故の未然防止のデータ収集が行われているので、その分析と対策に期待します。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳を損なわぬよう職員は言動に節度ある対応を心がけている。	身体拘束廃止委員会を通じて、誇りやプライバシーを損ねるような言葉がないように周知している。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者がわかりやすい言葉やジェスチャー等を使いコミュニケーションを図っている。自己決定が難しい方には選択できるような声掛けの方法を行っている。			
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ゆっくり急がせない本人に沿った支援を行っている。			
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容を利用し、希望に副ったヘアスタイルにしたり、好みの服を着て外出することもある。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の会話から嗜好を反映したメニューを作ることができるようになった。	一人ひとりの好みや力を活かしながら、食材の買出しや食事の準備等楽しんで行えるよう検討されている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分制限の方もいらっしゃるため、一人ひとりの状態に合わせた支援を行っている。			
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・夕は口腔ケアをしているが昼はしていない。			
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員が個々の排泄パターンを把握し、それぞれの入居者にあった声掛けをしながら排泄支援をしている。	排泄チェック表で排泄パターンを把握し、トイレで排泄できるように時間を見計らって声かけし、支援している。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や食事後内服の調整を行い、個々に応じている。			
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴ができるので体調や外出などタイミングに合わせて週2回は入浴をしてもらおう。入浴時は色々な入浴剤を使用し、視覚や嗅覚でも楽しめるようにしている。	週2回を目安に一人ひとりの希望やタイミングに応じて支援している。また、入浴が楽しみなものになるよう入浴剤を使用するなど工夫している。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ずつの睡眠パターンが把握されている。自由な時間に休んでいただけるように支援している。			
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	いつでも薬の内容がわかるようになっており、変化などあればその都度伝えたり朝礼で確認しあっている。			
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれ出来る方は役割として行っている。本人や家族に話を聞きながら個々の楽しみに合わせた対応を行っている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望に添い一緒に買い物や銀行へ出かける支援をしている。また、散歩等の外出も積極的に取り入れている。	一人ひとりの希望にそって、買い物、護国神社祭や博物館見物等戸外に多く出かけられるように支援している。また、散歩や銀行に出かけられるよう支援している。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方は本人に行ってもらっている。出来ない方にはホームで管理しているが、買い物を希望される際には一緒に外出して支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に添って手紙の代筆や、電話の対応をしている。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じられるよう室内装飾作りを利用者で行っている。	利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。また、リビングや廊下の壁には、季節毎の飾りつけ等生活感や季節感が感じられるよう工夫している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1階がリビングルームの為、場所がなく3階に利用者が見える部屋を用意している。喫煙場所は1階に確保している。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力で馴染みのものが持ち込まれ、自分の部屋として安心して過ごしている。	居室は、本人や家族と相談しながら、仏壇や使い慣れた家具、家族の写真等が持ち込まれ本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の状況に合わせて、安全に配慮している。トイレ・浴室・居室など、すぐわかるように工夫している。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム 1条ハイツ

作成日: 平成 22年 6月 9日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	42	口腔内の清潔保持	昼食後には全員、口腔ケアを徹底する。	利用者さんには説明を行い、癖を付けてもらう。研修に行ってもらい他の職員にも伝えてもらう。職員がいつでも読めるように図書棚を作る。	1ヶ月
2	13	職員を育てる取り組み	介護力をつける。	研修などに参加しているが、他のグループホームに見学や研修などの機会をつくる。	6ヶ月
3	26	チームで作る介護計画	全員で介護計画に関わっていく。	全員にアセスメントの研修などを開き理解し担当を決め進めていく。	12ヶ月
4	3	事業所の力を活かした地域貢献	地域に参加していきたい。	町内会の集まりなどに参加したい。	12ヶ月
5	34	急変や事故発生時の備え	あせらず対応できるように身に付ける。	応急手当や初期対応の訓練を行っていきたい。	6ヶ月
6	15 16	初期に築く本人との信頼関係 初期に築く家族との信頼関係	ホームの内容をもっとわかりやすくする。	パンフレットも生活保護用のものを作成したり、ホームでの1日の生活や行事などの様子のDVDなど作成していきたい。	6ヶ月

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。